

氏名	山地亜希
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第143号
学位授与年月日	平成24年3月9日
学位論文題目	小児がん患児と家族への退院指導と在宅ケアマネジメントの実際

## 論文内容要旨

※整理番号	148	(ふりがな) 氏名	やまじ あき 山地 亜希
修士論文題目	小児がん患児と家族への退院指導と在宅ケアマネジメントの実際		
<p><b>研究の目的</b> 本研究の目的は、小児がん患児と家族への退院指導と在宅ケアマネジメントの実際を明らかにすることである。</p> <p><b>研究方法</b> 小児がんの治療終了後、退院して約1ヶ月～1年前後までの幼児期・学童期の患児の主な養育者10名に半構成的面接によるデータ収集を行い、質的帰納的に分析した。</p> <p><b>結果</b> 分析の結果、430のコードより4の大カテゴリー、17のカテゴリー、81のサブカテゴリーを抽出した。以下、大カテゴリーを【 】, カテゴリーを《 》で示す。《入院中に習得した適切な行動基準》《退院時の医師からの指示を遵守》《退院は自然な成り行きと認識》より【<b>気負いが無い退院</b>】、《退院後の生活に次第に身体が順応するよう工夫》《母親が工夫して行う感染予防管理》《母親が自分自身で判断して児の体調を管理》《児と家族で決定する生活管理》《きょうだいとともに再構築する生活》より【<b>葛藤を繰り返しながら健康を保持</b>】、《具体的な行動基準の情報が少ないままでの生活》《家庭での医療的ケアや体調維持に関する懸念》《QOLの拡大に対する葛藤》《地域で生活を再構築する中での気掛かり》《妥協点を見出すための管理基準の揺らぎ》《児の健康管理による副次的な問題の出現》より【<b>元通りの生活を目指す</b>と出現するジレンマ】、《気掛かりなことは医療者に相談して解決》《教師と協力して児の学校生活復帰を支援》《地域からの支援を得てQOLが向上》より【<b>地域における在宅支援を受容</b>】を抽出した。</p> <p><b>考察</b> 母親は、主として外泊を重ねることにより、適切な行動基準を入院中に身に付けており、特段に意気込み身構えることなく自然に入院生活から家庭生活へ移行する【<b>気負いが無い退院</b>】をしていた。そして、実際に家庭生活をはじめ、様々な方法を試したり思考を巡らせ【<b>葛藤を繰り返しながら健康を保持</b>】する工夫を行っていた。しかし、同時に、出来る限り通常の生活を目指す中で、【<b>元通りの生活を目指す</b>と出現するジレンマ】に遭遇していた。そのため、悩んだり方法を変更したりし、やはり【<b>葛藤を繰り返しながら健康を保持</b>】しており、児のQOL拡大のため、【<b>地域における在宅支援を受容</b>】していると考えられた。</p> <p><b>総括</b> 外泊の積み重ねにより、母親は退院を特別に意識して捉えていないため、退院指導の内容はあまり印象に残っていないこと、生活を拡大していくときに困難が生じることから、退院後の生活スタイルに合わせ、有用と思われる情報を選択して提供することが、小児がん患児と家族への退院指導として重要であると考えられた。また、外来での継続看護として、その時々新たに生じている疑問に対してその都度対応したり、児の様子をみながら制限の緩和について母親と話し合っていくことが重要であると示唆された。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。